

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201645
法人名	有限会社 グループホームすだお
事業所名	有限会社 グループホームすだお
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市須田尾町18番1号 (電 話) 0956-20-1535

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成 21年 3月 16日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計		9人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤	人, 常勤換算 7.4人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950円	

(4)利用者の概要(4 月 1 日現在)

利用者人数		8名	男性1名		女性7名
要介護1		4名	要介護2		2名
要介護3		0名	要介護4		2名
要介護5		0名	要支援2		0名
年齢	平均	85歳	最低	71歳	最高95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院、中央病院、福田外科病院、さた歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年開設して以来、グループホームでの生活のあり方、ケアのあり方を常に見つめ、実践を続けてきた。経験を積みながら変わってきたのは、無理に「何かを行う・・・」という肩に力が入っていた状況から、ご利用者を中心とする(理想とする)ケアが、ごく自然にできるようになってきている。2階のソファに座り、みんなで会話を楽しみ、不安な気持ちにも寄り添い・・・その思いを語りあう。ご利用者の表情は明るく、日々、ゆったりとした生活が過ごせている。2階からは、佐世保港の海や、山々の緑、街並みの移りも眺めることができ、夏には花火大会の花火を見ることが出来る。路地を挟んで隣の小学生が、授業の一貫で玄関やベランダに苗を植えて下さり、その花々が満開に咲いている。ホームとしてのあり方が、次第に形になってきている状況であり、代表は、更に職員の力を発揮していただき、意見交換も続けながら、ご利用者主体の実践を続けていきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を基に一部職員と改善策を検討し実践してきた。主なものは、①花見などの外出を少し増やした。今後も増やしていきたいと考えている。②ご利用者の気持ちを把握してケアに取り組んできた ③その内容を介護計画に盛り込み、毎朝の申し送りやカンファレンスで意見交換を続けてきた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表自ら自己評価の意義を理解し、今年度は自ら取り組まれてきた。項目を一つ一つ見つめ日々を振り返る作業を続けてきた。職員の人れ替わりが少ないため、安定した日々の生活が行なえてきている。年々、経験を積み重ねてきた生活を振り返り、各自職員が自己評価票に気付いた事を記入し代表(管理者)がまとめていった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には、地元の児童民生委員の方や佐世保市役所の方、ご家族が参加され、奇数月の第3火曜に開催している。年間予定は事前にお伝えし、更にハガキで開催案内を出している。会議次第には、行事等の経過報告、今後の予定、ホームからのご報告内容が丁寧に記載されており、その次第に基づいて会議は進められている。次第の下には「ご意見」が書ける欄を作っており、各自、参加者は出されたご意見を自由に書き込めるようになっている。雑談でお話が盛り上がることも多く、地域の情報含めて良い情報交換の場になってきている。市役所にも、必要時、代表が訪問して相談などを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	20年4月から、ご利用者一人一人の“日常生活の状況(日々の過ごし方・食欲・睡眠・本人の要望・介護の状況)や身体の状態と対応について(病状の状態・認知症の進行)、そして施設からの報告(行事・レクリエーション・連絡事項・お願いを書いた「生活状況報告書」)をご家族に渡している。とても細やかに、日々の生活ぶりがわかり、ご本人のセルフも書かれている。ご家族の意見も多くいただきたいと言う思いがあり、来訪時等、代表、職員は声かけを続けている。年に1回、敬老会で集まれる機会も作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表は地元の方である。佐世保駅から山に向かって登っていったところの地域であり、高齢化率も高くなっている。地元の方が長く住んでいるため、代表も顔見知りの方が多い。そのネットワークを活用して、ホームの理解者が増えてきている状況であり、公民館活動や小学生の授業の受け入れなども続け、交流できる機会を作っている。ホームの隣が小学校であり、ホームに訪問してくれた子供たちが学校から手を振ってくれることもある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表は地元で生まれ育ち、地域性もよく把握できている。その地域で、ご利用者が社会的孤立を解消し、心身機能の維持向上並びにご家族の身体的、精神的負担を軽減することまで含めて取り組んでいけるように、事業の目的を掲げている。地域社会とのつながりの中で、その有する能力に応じた自立した日常生活を送れること、個人の尊厳が尊重されることを大切にして、開設時に代表が運営理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が忙しすぎると笑顔が出なくなり、イライラする状況につながるため、そのような事態にならないようにしていくことが大切であると、代表は常に考えている。職員に余裕を持ってもらうため、代表は、「職員にはできないことを指摘しない」「細かいことを指摘しない」「職員のやりたいことをしてもらえ環境を作っていく」ことを常に意識している。ご利用者の行動の背景にある心理面を細かく把握するようにしており、朝の申し送りの中で、心理面も含めて意見交換が行われている。「職員もよく観察してくれている」と代表は評価している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ隣が小学校である。その子どもたちが、ホームの玄関やベランダに自分たちが育てた苗を植えてくれている。今では綺麗な花が咲き誇っている。高齢化率の高い地域でもあり、公民館行事の町内の敬老会・餅つき大会等ご利用者とともに参加している。大正琴の演奏に老人会の方に来て頂くこともある。代表が地元の方でもあり、町内の役員の方々とも顔馴染みであり、公民館に行っても声をかけてくださる方が多い。清掃活動にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表自ら自己評価の意義を理解し、自ら取り組まれている。職員の入れ替わりが少ないため、安定した日々の生活が行なえてきている。年々、経験を積み重ねてきた生活を振り返り、各自職員が自己評価票に気付いた事を記入し代表(管理者)がまとめていった。「職員全員が、お一人お一人の気持ちを見て行動できるようになってきている」と、代表は総合評価をしている。前回の評価結果を基に一部職員と改善策を検討し実践を続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回(奇数月の第3火曜)開催している。児童民生委員・ご家族代表・提携事業所のケアマネジャー・佐世保市職員の方などが参加している。初回の会議では、ご利用者の方も参加していただいたが、少し不穩になられたため、その後からは参加を見合わせている。会議終了後に、2階のフロアに移動し、ご利用者の方々と交流することもある。会議の年間予定を事前に連絡するとともに該当月にハガキで開催案内をし積極的に参加して頂けるよう働きかけている。会議は、雑談も弾み和やかな時間となっている。	○	今後も引き続き、参加者の方にご利用者の方の笑顔や暮らしぶりを知って頂くためにも、2階でお茶をする機会を増やしていかれてはいかがであろうか。また、職員の方に、写真等を使って日々の生活を話していただくことで、より、ホームの楽しい生活状況や実状を理解していただくことにつながると思われる。今後も、より充実した会議になっていくことを期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ご家族からの相談内容などから、更に市役所に確認したほうが良いことなどは、代表が直接、佐世保市役所を訪問している。市の係長に相談し具体的なアドバイスをいただいている。空室状況等についても担当者にお伝えし、地域の方々がスムーズにホームを利用できるように連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態についてはご家族の来訪時にお伝えしたり、日頃の生活時の表情等を写した写真を各居室に貼り、見ていただいている。昨年の4月より、2か月に1回「生活状況報告書」を担当職員が書き、代表がパソコンに入力しており、それをご家族にお渡ししている。お小遣い等をお預かりしている方には、出納帳にサインを頂いている。職員の入れ替わりは少ないが、その時は、「生活状況報告書」に記載していく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情及びご要望の申し出について」と言う書面を作成し、ご家族に配布している。苦情受付責任者(代表)の明記とともに、苦情受付担当者は“当ホームの職員であれば誰でも結構です”と記載されている。第三者委員は、嘱託医に依頼し掲示を行なっている。代表はご家族の立場を理解し、「お世話になっているという思いから、遠慮があるのではないか」と考えている。今後もざっくばらんに言える環境を作っていきたいと思っており、日頃も、代表、職員含めて、ご家族に声かけするように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表は馴染みの関係でケアにあたることを大切に思っている。単独ホームのため、職員の異動はなく、今では離職も少なく、開設当初からの職員も勤務している。休みの希望にできるだけ応じ、有給もすべて消化できるように配慮している。調理を主にされる方、夜勤専門の方、日勤(9時から17時)だけの勤務体制などを整えており、仕事を続けやすいシステムも作っている。職員親睦のための食事会をする事もあり、職員同士連絡し相談したり喜怒哀楽を共にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、職員の技術・知識向上のため、より多くの研修に行ってもらいたいと考えている。研修案内が来た時は、必ず職員の研修室のテーブルの上に置くようにしており、研修に参加しやすい環境を整えている。研修希望時は勤務調整を行い、ホーム側から研修への参加を促した時は、勤務扱いにしている。認知症介護実践者研修を始め市町村・協議会主催研修会に参加し、ケアカンファレンスや定期的な内部研修時に伝達や資料配布を行っている。	右欄へ続く	代表は、看護師、主たる調理担当者、介護職、それぞれの立場を考慮し、また各自の経験や習熟度も踏まえながら、個別に育成のための研修受講をしてもらっている。各自の希望も大切にしている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・連携の必要性を認識しており、運営推進会議にも他事業所のケアマネージャに参加していただいている。居室の空き状況がある場合は、関係施設や、以前お問い合わせを頂いた居宅の担当者に連絡するなど、日々の業務の中でも連携を作っている。グループホーム協議会は夜間の開催の為管理者が出席している。	○	今後、更なるネットワークを作り、相互訪問等を通じて質の向上に取り組んでいきたいと、代表は考えている。短時間の訪問では効果が無いとも考え、1日職員交換などを協議会に提案していく予定である。今後、職員同士の交流や意見交換含めて、活動が動き出していくことを期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	代表(管理者)・職員などが病院や自宅に面談に伺ったり、ご本人・ご家族が見学に来ていただいて、ホーム(場所)に馴染んで頂く配慮をしている。緊急時などは、ご本人が安心される理由「ちょっと、ここで生活するのよ」等、ご家族が伝える場合もある。その時は理解されても、後日、混乱されてくるご利用者も多く、職員は、お一人お一人の不安な気持ちや「家に帰りたい」と言う気持ちに引き合い、不安を少なくする言葉かけなどを続けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	外部評価当日も、ご利用者の方々から「ゆっくりして行ってください」と優しい笑顔で出迎えて頂いた。職員が忙しそうにしている時に「何か手伝う事ないね、頑張らんばよね」等言葉かけをして頂くこともある。他のご利用者をさりげなく見守りされたり、職員が助けて頂いている事もある。らっきょ漬け、梅干し作りで“こうしたらいいですか”等、ご利用者に教えて頂く場面を意識的に作るなど、代表、職員は、ご利用者のお気持ちを大切にケアを続けてきている。	○	一人として同じ人生を過ごしてきた方はおらず、80年、90年の人生の中で、その方だからこそ培ってきている知恵や知識、強さ、包容力、生き様が多くあると思われる。今後も「自分はすべて知っている」という姿勢ではなく、「まだまだ、自分は知らないことが多くある、教えていただく」と言う姿勢を持つことが、真の“ご利用者に対する尊厳”につながると思われる。施設の方針「個人の尊厳を尊重し…」とは何なのか。今後も引き続き、見つめていかれることを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	代表は、「余裕を持って、ゆとりを持って」という環境が作りたいと考えている。職員も、年々グループホームとは、グループホームの業務のあり方などが真に理解できてきており、自然体で過ごせるようになってきている。一緒に洗濯物をたたみ、一緒にソファに座って海を眺め、テレビを見ながら一緒に笑う。また季節の話をする中で、ご本人の思いや意向を把握し続けている。心理面も見つめ、不安な気持ち等把握できたことを、朝の申し送りの中で職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の気持ち、要望などを、日々の暮らしの中で把握している。他の心身状況なども情報収集し、ご本人ができることも把握するように努めている。その内容を踏まえて、介護計画を作成しており、個別の留意点や手法などは、カンファレンス時に話し合い、カンファレンス記録に残している。外出を望まれる方は、「買い物…」などの記載もあり、地域で暮らすという視点も盛り込まれている。できあがった介護計画は、ご家族に説明している。	○	介護計画を基本にしながらも、職員は日々、ご本人の心身の変化を細やかに観察し、事故予防にも努めてきた。具体的な介護内容についても、留意点などを日々情報交換している。リハビリの視点も盛り込み、足・腰など、心身機能の維持ができることを目指して、看護師・介護職の方も意識して取り組んでいる。今後、ご本人の歩ける(動ける)能力に応じて、医師にも相談しながら具体的な短期目標を掲げていかれてはどうか。ホーム内に看護師が2人おられ、更なる専門性の発揮をされていかれることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送りの時に、心理面も含めて確認しあっている。夜勤も行なっている管理者(介護計画作成担当)などと、日勤専門の職員が集い、月に1回カンファレンスを行なっている。介護計画に記載されている内容について、留意点も含めて話し合いが行われている。体調等変化した場合は、介護計画の見直し・変更を行っている。ご家族にも、来訪時等に要望等の確認を続けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の暮らしの中では、看護師を中心に健康管理、疾病予防を行い、早めに医師に連絡・相談できる医療連携体制ができています。入院中は「ホームに帰りたい」と言われる方が多く、医師との話し合いを続けながら、3か月は待つようにしています。ご利用者の個別の要望にそって、美容室・通院時の移送サービスやスーパーへの買物等柔軟な支援をしている。地域の方からの相談にも柔軟に応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの嘱託医とは、代表が以前からの知り合いであり信頼関係もできています。他の医師や施設との連携も取って下さるとともに、毎週1回、往診をして下さり、その夜、医師の指示で薬局から薬も届いている。全員、その嘱託医の往診を受けているが、同意と納得の上であり強要はしていません。専門的な治療が必要な時や救急を要する時等、医師から病院へ連絡して頂き情報提供等して頂いている。日々の暮らしや体調の変化は、ホームの看護師が嘱託医に報告しており、往診の結果もご家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ホームでの看取りはしていません。ただ、最後まで(退去時も、それ以降も・・)、次の生活場所等の相談窓口になりますし、支援をしていきますので」とご家族には伝えている。退去時は、今後の方向性について、いくつか選択肢を挙げて選んでいただくようにもしている。日頃の健康管理は2人の看護師が行い、脳梗塞等が発症しないように留意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人がわかりやすいような声かけを心がけている。職員は、ご利用者の馴染まれている名前呼び、目上の方に対する尊敬の念をもって接するようにしている。誘導の声かけ・排泄介助・食べこぼしの対応等、自尊心・羞恥心に配慮しさりげなく行っている。職員は個人情報保護法について理解しており、地域の方々に不用意に話さない事は勿論、外部で職員同士で話さない事やメモ類の処理についても、情報漏洩に十分配慮し徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、自然と一人一人の生活のリズムができてきている。職員は、そのリズムを大切にしている。生活のリズムがとれるような声かけ・誘導は行う時もあるが無理強いをしておらず、ご本人の習慣やその日の体調・気分を尊重している。食事・入浴や家事等かなり時間がかかる方についても、健康に支障のない範囲で納得されるまでゆっくりして頂き、希望や好みに配慮しカラオケやパズル等準備し、できる限り希望に沿えるように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳・食器拭き・テーブル拭き、食事に関する一連の作業も無理強いせず、体調に合わせ、その時にできる事をして頂けている。「美味しく食べる」ことが一番ということで、主に調理担当の方が、旬の素材を取り入れ、手間をかけてお料理している。料理品目も多く、できたてのものを美味しく食べることができている。検食当番の職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、入浴時間帯・回数をおお程度決めているが、希望がある時には時間帯により、シャワー浴・清拭等で対応している。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温・等の好みに合わせて個別に対応している。羞恥心への配慮もしており、危険がない場合は職員はドアのそばに出て、一人での入浴もしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	“どのような場面が、ご本人にとって穏やかになれる場面なのか”、職員は把握するように努めている。家事、食事を食べること、テレビを見ること、買い物に行くことなど、それぞれの役割・楽しみがあるが、代表は、役割や楽しみが「これだけ」と決めつけないようにしたいと考えている。ご利用者ごとの生活歴・趣味・習慣を活かし、個別の役割や楽しみ事を持って頂けるよう取り組んでいきたいと考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2階のホールから見える景色は、最高の気分転換になる眺めである。これまでの生活の継続としてスーパーに買い物に行ったりドライブ等、個別の外出が出来ている方もおられるが、坂が多い町でもあり、日常的に外出しているとは言えない状況である。外出を好まれないご利用者もおられるが、代表、職員も、もっと外出回数を増やしていきたいと考えている。	○	代表は、“毎日、散歩”を理想としているが、環境上の課題もあり、「すぐの実現は難しいだろう」とも考えられている。月に1回は、天気を見ながらも、お花見やドライブなど外に出る機会を作っていく予定である。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19時～6時迄の防犯上の施錠以外は行っておらず、階段・エレベーター等も自由に使えるようになっている。安全確認の為に職員が立つ位置を工夫したり、プライバシーの侵害や音による行動制限に配慮しながら職員同士で声を掛け合っている。自室に鍵をかけられる方もおられるが、安全確認など必要に応じて解錠する事は出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、防火訓練に7名の職員が参加するとともに、火災を想定した消防・避難訓練を年2回行っている。年に1回、消防署の査察があり、避難の方法などアドバイスを頂いている。2階からの避難も、隣のホームの敷地に逃げられるよう、小さな橋がかけられている。	○	冷蔵庫、冷凍庫等には、食料が保管されている。今後も、災害備に備えた備品等について、何が必要なのか、調理担当の職員等とともに検討し、準備していかれてはいいかがであろつか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの方が、全量摂取されている。ご利用者の好みに合わせ肉を魚にする等食材を変えたり、食べたいものも、お聞きしながら対応している。食事量を把握・記録し飲水については必要量が摂取できているか確認している。不足している時には吸い飲みの活用や好みの飲み物で摂取量を増やせるようにしている。調理担当の方が栄養のバランスを考えており、定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき医師からの助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階には、ご利用者の顔写真やちぎり絵の作品が飾られている。2階の共用スペースや各居室からは海や街並みを眺めることができ、花火も見ることができる。2階のベランダには、小学生が植えてくれた花が咲き誇り、心を和ませてくれている。代表のご自宅の雛人形が飾られ、季節感にも配慮している。椅子、ソファなど、ご利用者が思い思いに過ごせる空間も作られている。台所も一体化しているため、包丁とまな板の音も聞こえてくるため、ご利用者の安心化にもつながっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口に暖簾がかけられており、「自分の部屋」というのがわかりやすくなっている。また、ドアを開けた時のプライバシーの保護にもなっている。ご本人が安心されるように、ご家族が小物やお人形を持ってきて飾ってくださったり、馴染みのテレビを持参されている方もおられ、個別の部屋作りがされている。エアコンから直接風が当たらないように、天井から葦をつるすなどの配慮もしている。ホーム側からのプレゼントである、花の咲く鉢植えを出窓に飾り、大切にお世話をしている方もおられた。		